



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

過活動膀胱

過活動膀胱は、あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、案外身近にある病気です。具体的には、「我慢できないほどの尿意をもよおす」「我慢できずに漏れ出してしまふ」「トイレが近い」「夜中に何度もトイレに目を覚ます」などの症状がおこります。

膀胱は、腎臓で作られた尿を一時的に溜めておく場所です。一定量以上の尿が溜まると、神経を介して脳に刺激が伝わり、トイレに行きたくなります。トイレに行くと、尿道を開き膀胱を収縮させて排尿し、尿をすべて排泄すると尿道を閉じて、再び尿を溜めます。この膀胱と脳をつなぐ神経回路に異常がおこると、膀胱にあまり尿が溜まっていなのに尿意をもよおしたり、尿道の開閉のコントロールがうまくいかず、尿を漏らしたり失禁したりということがおこります。

す。これが、過活動膀胱の原因のひとつと考えられています。

神経の働きの異常以外にも、出産や女性ホルモンの減少、加齢などにより、骨盤の底の筋肉が弱くなり、膀胱や尿道を支える力のバランスが崩れることで症状がおきたり、男性の場合は、前立腺肥大症で尿が出にくい状態が続き、排尿時に意識して尿を出すことを繰り返していると膀胱が過敏になり症状がおこることもあります。

過活動膀胱の薬物療法は、抗コリン剤がよく使われています。この薬の働きは、アセチルコリンという神経伝達物質の働きを弱めることで、膀胱が過度に収縮するのをおさえ、尿を膀胱に溜めやすくして、頻尿を改善します。しかし、アセチルコリンは体のいろいろなところでも神経伝達物質として働いているため、その作用を弱めることで、眠気や喉の渇き、便秘などの副作用も表れます。また、眼圧を上げることもあるため緑内障

の方は服用することができません。

抗コリン剤以外では、膀胱の筋肉を緩ませて膀胱に尿が溜まりやすくする作用を持つベータスリー受容体作動薬が使われています。この薬の特徴は、抗コリン剤とは作用が違いため、眠気や便秘などの副作用が出にくいことが利点ですが、妊娠中や授乳中は服用できないなど制限があります。

前立腺肥大症に伴う過活動膀胱の場合は、前立腺の筋肉の緊張を和らげて尿道に対する圧迫を軽減する作用を持つアルファ受容体拮抗薬が使われることもあります。

過活動膀胱は、治療によって症状を改善させることができます。また、膀胱炎や尿路結石など過活動膀胱以外の病気が原因で症状がおきている場合もあるので、気になる症状があつたら泌尿器科などの医療機関で受診することをお勧めします。

(北区 薬局エビノファーマシー

松本 博志)